



しば い けん いち
芝 井 健 一

生 年 月 1983年5月福井県生まれ
最終学歴 2006年北海道大学大学院

建築都市空間デザイン学科
業務経歴 株式会社大林組 入社
現在、名古屋支店
建築設計部 副課長

●担当した主なプロジェクト

- 2013 東芝エレベータ15A号館
フィールド研修センター
- 2013 岡崎市火葬場運営事業
- 2013 川崎重工 弥富寮
- 2014 プライムアースEVエナジー(株)
品質棟・保全棟
- 2016 藤田保健衛生大学
坂文種報徳階病院
- 2017 藤田保健衛生大学大学病院
- 2018 プライムアースEVエナジー(株)
PEVEアリーナ「結(むすび)」
- 2018 プライムアースEVエナジー(株)
モリの子保育園

■青年技術者のことば

「長く親しまれる建築」

建築の宿命は「使われる」ことにある。建築は使われなくなると著名な建築家による作品であっても短命にして解体に追い込まれることがあるが、これは存在しているだけで維持費がかかるという現実がその理由だろう。設計者は施主にこの現実的な費用に見合う空間を提供しなければならない。この現実こそ彫刻やアートの創造にはない建築ならではの面白さと難しさではないだろうか。

地球環境と共生してためには建築そのものの省エネを追求することもさることながら、長きにわたって存在することが前提となる。風景や景観といった時間軸を伴う指標で価値を獲得するためには、時代の移ろいで陳腐化しない佇まいで存在しつづけることが必要になる。

愛着をもって使われ、風景・景観としての価値を獲得して地域住民にも歓迎されるような建築を残すことが設計者の使命だと考えている。自分がかかわった作品が今日も愛着をもって使ってもらえることを願っている。

■すいせん者

近井 務
(株)大林組 名古屋支店
統括部長



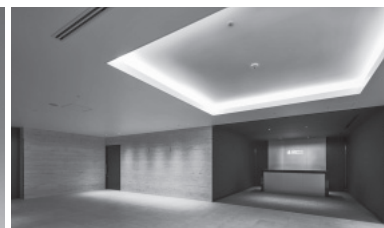
PEVEアリーナ「結(むすび)」

プライムアースEVエナジー(株)の創立20周年記念事業で企画された体育館で、コンセプトは災害対策拠点としての機能と徹底した省エネである。ファサードやエントランスは施主の主力製品をモチーフにして、必要な機能をメタリックな質感の外装材がパッケージングするような形状とした。



モリの子保育園

定員30名の事業所内託児所の計画で、必要諸室の間に意図的に「隙間」を設けることで風通しを良くすると共に、楽しいスペースが生まれるようにした。駐車場からの通勤動線には起伏があることに着目し、園庭で子ども達が遊ぶ様子を見守ることができるようなプランニングを意識した。



藤田保健衛生大学病院

病棟・外来・健診センターからなる病院の増築計画である。内装は既設棟まで含めた共通のデザインコードである「木」を、多様なスペースやグレード感に応じてアレンジした。増改築を何度も繰り返す広大な病院の中で一体感のある空間を提供することができた。